教育実践知から教える&学ぶ

第5回

高齢者ケアの教師塾

牛田貴子
高齢者ケアの教師塾湘南 代表世話人
湘南医療大学 保健医療学部
看護学科 老年看護学 教授

研究領域は，老年看護学・家族看護学。看護学修士，医科学博士。保健師として市町村勤務，助産師・看護師として病院に勤務した後，信州大学医学部保健学科などを経て，2015年4月より現職。
「高齢者ケアの教師塾 湘南」ホームページ
http://www.ab.auone-net.jp/~kyoushil/top.html

高齢者の疑似体験から教える・学ぶ

「高齢者ケアの教師塾　湘南」は，神奈川県看護協会キャリア支援研修センター藤沢で開催している勉強会で，高齢者ケアを教える立場の看護師や介護士などが実践知を持ち寄り話し合っています。本連載では本塾の一部を再現していきます。

第５回になりました。今回もぜひ誌上討論にご参加ください。今回のテーマは，「高齢者の疑似体験から教える・学ぶ」です。読者の皆様の発言（？）もありますので，実際に参加しているつもりで読み進んでください。

穂高　こんにちは。今日の話題提供者の穂高です。今日は，高齢者疑似体験を取り上げます。看護や福祉だけでなく，教育系の授業でも行われているようですが，何のために，なぜ実施するのかという点から考えてみたいと思います。

今回の参加者：７人

- 穂高さん（看護系大学教員）〈話題提供者〉
- 松月さん（回復期リハビリテーション病棟介護福祉士）
- 三森さん（総合病院退院調整看護師）
- 向山さん（看護専門学校教員）
- 芽形さん（特別養護老人ホーム相談員）
- 森川さん（介護福祉専門学校教員）
- ○○さん（あなたです）

疑似体験の目的

向山　私は，看護専門学校の教員です。高齢者の毎日の生活の大変さと言いますか，ADLを実感してほしいと思い，１年生後期の老年看護学の授業の最初の方で実施しています。他校でどのように実施しているのかを知りたいと思って参加しました。

芽形　私は，特別養護老人ホームの相談員をしています。施設には，医療・福祉系の実習生だけでなく，教職を目指す学生や新人公務員の体験実習，小学生と高齢者との交流体験など，多くの方がやって来ます。この時，希望があれば，高齢者の話を聞くだけでなく，疑似体験もしてもらいます。希望する人数は多くはないのですが，体験者にはさまざまなことを感じ取ってもらえますね。特に子どもたちの柔軟な発想に，驚かされることもあります。

森川　私は介護福祉の教員です。疑似体験セットはいろいろなメーカーが販売している教材ですが，どう使うかですよね。説明書どおりに装着して少し動いてみて，「ああ，お年寄りは大変だ」ということを実感として理解する。でもそれだけでよいのかと疑問に思っていました。子どもたちの反応はどのような感じですか。

芽形　体験セットは子ども用を使っていますが，内容は大人用とほとんど同じです。子どもたちは，関節の動きにくさや体の重さを，自分の言葉で表現してくれます。「これじゃあ，トイレに行けない」とか，「疲れる」とか。中には，「背中を曲げて歩くのかと思ったら，そうしなくても歩ける」とか，「これをすると筋肉がつくね」という子もいました。引率の先生は，「お年寄りはこんなに大変なのだからいたわりましょう」という流れで，この体験を考えていたのかもしれません。しかし，そんな大人の思惑以上の反応が出てきます。

向山　私が知りたかったのもそういうことです。疑似体験の目的であった，「高齢者が身体を動かすことの大変さを知って，いたわる心を育む機会とする」というのを，体験した子どもたちは超えているわけですよね。「お年寄りは背中が曲がっていると思ったけれど違った」「意外と筋肉を使っている」といった発想をされると，目的からは外れるわけです。でもこのような子どもの意見を，芽形さんは止めませんよね？

芽形　ええ，逆に褒めますよ。「すごく大切なことに気づいたね」って。高齢者に対する固定的なイメージを変える体験になったというのは，とても大きな学びですし，それを発言してくれることで，みんなの学びにつながります。体験したからこそ分かることです。

松月　私も，介護福祉の学生時代に疑似体験をしました。あの時は真面目に，高齢者の体験をしてケアの必要性を実感するという，ある意味，敷かれたレール通りに学んだなと思います。

今思うと，疑似体験では，加齢によってできなくなったことが強調されすぎていたのが気になります。等身大の高齢者というか，いろいろな喪失体験がありながらもそれを受け入れて工夫していく強さだとか，その中でも楽しみを見つけている暮らしだとかは，実習で直接高齢者と接しなければ学べないのかなと思います。

穂高　それは，企画次第だと思います。昨年実施した看護の２年生の体験後の感想を見てください。視覚や聴覚の衰えや関節可動域の低下などの身体的な変化から，「怖い」「つらい」「孤独」「自分はダメだ」などの心理的な変化へと関連付けています。しかし，否定的な感想だけでなく，「尊敬した」「感謝する」「うれしい」という感想もあります（**資料１**）。

三森　周囲の言葉が胸に突き刺さるというのがありますよね。高齢者をとりまく環境と言うと大げさですが，周囲

の人々の理解とか協力が，老いの受容や暮らしぶりに大きく影響することを理解することも，体験の目的になりますね。

穂高 私は，身体面だけでなく，心理，社会的な老いも実感してもらいたいと思っています。先ほどの松月さんの言葉「等身大の高齢者」という表現がぴったりかもしれません。そして，高齢者の多様性も理解してほしいのです。同じ年齢，性別，障害の程度，疾患や治療であっても一人ひとり違うことを，グループ体験で学びます。そのため，ロールプレイ仕立ての台本を準備しています。

体験場面の内容

穂高 ここに，４つの台本を持ってきました。

これは，「体験カード」（**資料２**）と呼んでいるものです。体験はグループで実施し，体験セットを装着した高齢者役と，家族や医療従事者など，割り当てられた役になりきって，台本どおりに進めていきます。その時にそれぞれの立場で感じたことが，その後の話し合いの教材となります。「喪失体験」「獲得体験」「移動の体験」「病い・死の体験」の４種類があり，高齢者役になった時にこの４種類が１つずつ体験できるようになっています。

森川 なるほど。だから，先ほどのような学生の感想につながるのですね。私は「移動の体験」を中心にしています。でも，単純に動いてみるのではなく，暮らしの一場面になっています。畳からの起き上がり動作の大変さだけでなく，それによって何が生じるのかまで家庭生活の中で再現されています。

資料1 加齢変化を疑似体験した学生の感想

- 視野が狭い，聞こえにくいと，怖くて動きたくない。
- どうして周囲は分かってくれないんだろう…。孤独だった。
- いつものちょっとしたことができないもどかしさから，自分はダメだと全部否定してしまいたくなった。
- 自分なりに頑張って生きてきたのに，できない，現在の状態しか評価してもらえないのなら，本当につらいだろうなぁと実感した。
- 周囲の言葉「早くして」「まだ～？」「こんなこともできないの？」「汚いなぁ」など，悪気なく言っていると分かっていても胸に突き刺さった。
- 老いを生きていくたくましさ，強さに心から尊敬した。
- 小さなことだけれどうれしい。「ありがとう」とよく感謝する気持ちが少し分かった気がする。
- 声をかけてもらうこと，褒めてもらうこと，何げに気遣ってくれることが，できなくなったからこそ本当にうれしい。

三森 この家族の会話は特別なことではなくて，本当に日常にありそうなことですよね。家族が「また忘れたの」「急いで，急いで」と言うのは，普段の何げない会話です。この場面を作成した教員の，生活を大切にする目線を感じますね。全員が同じこの「移動の体験」をするのですか。

穂高 「喪失体験」「獲得体験」「移動の体験」「病い・死の体験」の４種類それぞれに，７～８の体験カードを準備しています。５人グループだと，役割を変えて５回の体験があるので，違う体

資料2 体験カード

体験カード1 移動の体験　布団からの起き上がり

配役：家族２人，タイムキーパー１人

準備・注意点：高齢者はゆっくりと臥床してください。仰臥位でも側臥位でもよいです。
手助けはしません。危険がないようにゆっくり動いてください。

状況説明：老人会の役員会を忘れて，昼寝をしていました。

家族１　○○さん（高齢者役の名前），老人会の会長さんから電話がありましたよ。
家族２　また忘れたの。この前，会長さんに会った時に嫌味を言われたよ。
家族１　ほら，早く支度してください。役員会が始まっていますよ。急いで，急いで。

高齢者役は，促されて起き上がり，立ち上がって，靴を履く
家族２人は，高齢者の動作を補助しながらも言い続けます。

家族２　年をとって忘れるのは仕方ないけれど，みんなに迷惑がかかるのは困るよ。
家族１　カレンダーに書くとか，毎朝予定を確認するとか，考えてくださいよ。
家族２　時間がかかりそうだから，「具合が悪いから休む」とでも連絡しましょうか。

終了後指示：自己イメージカード（黄）１枚，大切な所有物（薄青）１枚を失います。

必要物品：畳の部屋，枕，布団

体験カード2 喪失体験　映画館入館時のトイレ

配役：小学生の孫２人，タイムキーパー１人

準備・注意点：高齢者役の台詞は，視覚障害により読みにくいです。補佐してください。

状況説明：映画館のチケット売り場です。トイレに行きたくなりました。
高齢者役は，トイレに行けるように，孫たちをなだめる言葉をかけてください。
孫２人は，高齢者の言葉には耳を貸さずに一方的に話してください。

高齢者　映画館の中に入る前に，トイレに行こうよ。
孫１　え～，また～。さっきも駅でトイレ行ったでしょ。私（僕）は行かないよ！
孫２　早く入ろうよ～。ねぇ，早く。始まっちゃうよぉ。
孫１　おばあちゃん（おじいちゃん）だけで，行ってきたら。
孫２　え～。まだ入らないの。いやだ～。早く入ろうよ。ねぇ，早く～。
孫１　映画は２時間もあるんだよ。途中でまた「おしっこ」なんて言わないでよ！
孫２　（怒って）そんなに「おしっこ」ばっかりじゃ，おむつしてくればよかったじゃん！

終了後指示：自己イメージカード（黄）１枚，大切な所有物（薄青）１枚を失います。

必要物品：映画のポスター→貼っておく

体験カード3 病い・死の体験　車いす失語症

＊体験が心理的に厳しい人は，申し出てください。

配役：看護師1人，介護士1人，タイムキーパー1人

準備・注意点：特になし

状況説明：介護福祉施設の入所待ちで，療養病棟で暮らしています。
高齢者役は，唇を閉じたまま「トイレ，トイレに行きたい」と全身で訴えてください。

介護士　○○さん（高齢者役の名前），夜間眠るためにも，しばらく座っていてください。
看護師　また不穏状態なの。転倒・転落には注意しなくてはいけないですね。
介護士　この人，認知症は重いんですか。
看護師　すぐに動き出して目が離せないし，中度から重度でしょう。理解できていないでしょうね。
介護士　○○さん（高齢者役の名前），ワンちゃんですよぉ。もう少しワンちゃんと遊びましょうねぇ。なんだか危ないですね。やっぱり抑制しましょうか。

終了後指示：住居カード，役割カード（薄桃）すべて，大切な所有物（薄青）２枚，自己イメージカード（黄）３枚を失います。

必要物品：車いす，犬のぬいぐるみ

体験カード4 獲得体験　孫の作文

配役：孫（小学生低学年）２人，タイムキーパー1人

準備・注意点：特になし

状況説明：孫と散歩に行った時に，ベンチでお話ししました。

孫妹（弟）　外は気持ちいいね。
孫姉（兄）　おばあちゃん（おじいちゃん）と散歩すると，すっごい面白いんだよ。
孫妹（弟）　私（僕）も，一緒に散歩するの大好き。
孫姉（兄）　あのね。恥ずかしいから，お母さんたちには内緒だよ。作文で賞状もらったんだ。
孫妹（弟）　お姉ちゃん（お兄ちゃん），すっご～い。
孫姉（兄）　ここに持ってきたんだ。目をつむって聞いていてね。

孫姉（兄）役は，ゆっくりと聞こえやすいように作文を読み上げます。

終了後指示：自己イメージカード（黄）を２枚獲得します。

必要物品：「私（僕）のおばあちゃん（おじいちゃん）」の作文

験カードになるようにしています。「移動の体験」では，このほかに，「駅でホームに行くエレベーターを乗り間違えた」「杖歩行で2kgの味噌を買ってくる」などがあります。この時にも，家族や孫役の学生の台詞があります。

歩行姿勢や膝関節の関節可動域の制限，視野狭窄や聴覚の低下などの体験ですので，実施場所をうまく活用して段差や坂道などを途中に入れるとよいと思います。安全への配慮について十分説明しますが，グループメンバーの役割としても意識させています。

向山 「移動の体験」は「喪失体験」とも言えますよね。では，この「喪失体験」は移動以外の体験でしょうか。

資料3 孫の作文

おばあちゃん（おじいちゃん）のスイカ

三年二組　○○　○○（孫役の学生の名前）

うちのおばあちゃん（おじいちゃん）は，スイカ作りの名人です。ことしも大きなスイカがゴロゴロできて，はこぶのを手つだいました。
「ありがとうねぇ」
と，いつも言ってくれます。おばあちゃん（おじいちゃん）は，せ中が丸くなっていて，ときどきトントンとたたきながら，せのびをします。
「スイカじゃなくて，メロンだったらおもたくないし，おいしいのに」
と言ったら，
「おばあちゃん（おじいちゃん）は，メロンの声は，わからねぇ」
と言いました。スイカの声はわかるのかな。お母さんがとってくるスイカは，中が白かったり，スカスカだったりです。スイカは，おばあちゃん（おじいちゃん）だけに，いろいろおしえてくれるのかな。

わたし（ぼく）はメロンもすきだけど，おばあちゃん（おじいちゃん）のスイカも大すきです。

穂高 おっしゃるとおりです。「移動の体験」と「病い・死の体験」は，「喪失体験」の一部ですが，特に学ばせたい内容であったために別に取り出しました。そのため，「喪失体験」は「移動の体験」と「病い・死の体験」以外の日常生活の中の場面，たとえば，「鍋を焦がして家族に注意される」「ボタン付けを頼まれて針に糸を通す」「運賃表を見て財布から小銭を出す」などがあります。「映画館入館前のトイレ」では，孫の「おむつしてくればよかったじゃん」という発言に，高齢者役の学生からは「ショックだった」「怒りを感じた」という意見が多くありました。孫役の学生からの感想は「この言葉を言うこと自体に抵抗があった」「小学生の時なら悪気なく言っていたと思う」など，さまざまでした。

獲得体験の実際

松月 獲得体験として「孫の作文」（資料3）がありますが，ほのぼのとしていてよいですね。作文まで準備するのは大変ですね。

穂高 準備を考えれば大がかりな演習だと思います。この作文は，教員が教材用に作成したものですが，住んでいる地域の小学校の作文集を読んでいて思いついたと言っていました。中には，「この作文の何が高齢者の獲得体験になるのかよく分からない」と言う学生もいます。感じ方はいろいろですが，もう少し

学生に分かりやすい工夫が必要かもしれません。このほか小道具には，「長寿のお祝い」のプレゼント，「交通安全の見守りの表彰」の感謝状，「免許センターでの免許更新」の検査結果と免許証などがあります。こまごまとした物をできるだけリアリティを持たせられるよう作成しています。

森川 獲得体験は台本を読むだけでは，本人の喜びや楽しみにはなりませんよね。その場の雰囲気を盛り上げるとか，喜びの表情だとか，「やった〜！」という一体感だとかが重要だと思います。この点で工夫されていることはありますか。

穂高 はい，「獲得体験」の場所を担当する教員は，盛り上げ役もします。拍手をしたり，「ありがとう」と声をかけたりします。学生やグループにも個性がありますので，サラッと感情の起伏がないままに流していくこともあります。教員の盛り上げ方を見て体験の意味を納得します。体験中の教員の役割は，円滑に演習が進むように時間管理や物品調整をすること，安全面で配慮することのほかに，リアリティを持って演習できるようにすることだと思います。

三森 考えてみると，病院の中で高齢者は「喪失体験」ばかりをしているのではないでしょうか。「獲得体験」につながる場面を作っていませんよね。看護師に注意されることはあるけれど，認められたり褒められたりすることがないのでは…，と思いました。日頃の業務を反省します。

穂高 実は私も，この企画で同じことを感じました。体験カードを作成するのに一番苦労したのが，「獲得体験」です。「喪失体験」や「病い・死の体験」はいくつも案が浮かぶのに，「獲得体験」はなかなか思いつきませんでした。教員の発想の乏しさは，実生活の中で高齢者の「獲得体験」を意識していないからだと感じました。

○○さん（あなた）〈あなたはどう考えますか？〉

病い・死の体験の実際

松月 私はこの「病い・死の体験」に興味があります。医療・福祉現場ならではのシビアな現実ですよね。現場の者としてはドキッとします。

穂高 この，車いすに乗車している失語症の高齢者の体験では，看護師が…とか介護士が…とかいう指摘にならないようにと注意したつもりですが，大丈夫でしょうか。高齢者本人と，ケアをする側の認識がズレている，場合によってはレッテルを貼って画一した方法しかとっていないこともあるということです。

松月 特別に「介護福祉士だから」という問題ではないことは分かっています。ケアをする者と受ける者の違いというか，高齢者のことを分かっていないのに分かったつもりでケアをしている横暴さというのか。自分にもあるかもしれません。そんなドキッとした感じです。

向山 現場を教材化する時に，他職種の表現の仕方に気を遣うという感覚は，とてもよく分かります。気になりますよね。学生にも「だから看護師は」「だから介護士は」といった，これもレッテルなのですが貼り付けを意識させないようにと考えます。

私も身体拘束の体験は，何らかの形で学生にしてもらいたいと考えています。中でも縛られて行動制限をされるという体験です。この場面ではそんな自分を見下ろされ，しかも分かってもらえないという状況ですよね。学生にとっては，かなり重たい体験ではないでしょうか。

芽形 病いや死に関しては，医療・福祉の学生にはぜひ，当事者の立場での体験をしてほしい。しかし，実際の企画は難しいと思っていました。また，これだけを取り出して実施すると本当に重たいし，それだけに集中することも現実的ではないと思います。泣き，笑いがあっての人生ですから。「獲得体験」も含めて，いろいろなことが起こることを学んでいく演習の組み立てになっている点に意味があると思います。

「体験が心理的に厳しい人は申し出てください」とあるので，配慮もされていると思います。実際に，この理由で演習をしない学生もいますか？

森川 私も知りたいです。特に死の体験とはどのような内容なのか，どのように学生は向き合うのか。福祉でも重要な部分ですが，なかなか演習としてイメージができません。

○○さん（あなた）〈あなたはどう考えますか？〉

穂高 死の体験は，2つつくっています。「親友の四十九日」では，自分だけが今も生きていて友人たちに置いていかれた寂しさを，親友の娘（息子）に語ります。また，「死後の対面」では，疑似体験セットを全部外してベッドに横になり，ご遺体役として家族の言葉を聞きます。この場面の発想は，いずれも私自身の医療従事者としての体験ではなく，生活者としての体験が基になっています。

学生の中には，実体験や，これまでにつくられたイメージが影響するのか，体験をしない学生もいます。毎回，数人はいると思います。特に「死後の対面」の場面設定は，霊安室をイメージした閉鎖空間で独特の重たい空気がありますので，直前に取りやめる学生もいます。当然，体験しなくても評価には影響しませんし，別課題を与えることもしません。

「死後の対面」では，家族がご遺体に声をかけるという内容で，家族の台詞はなく，各自が即興で考えて実施します。家族役になった学生たちは，言葉にできない思い，どんな言葉をかけたらよいのか分からない自分を感じ取ることが多いようです。そのため，緊張の中に笑いが出るという不思議な感覚を体験するグループもあります。ドラマのシーンのものまねのようになるグループもあるし，思い出や感謝の言葉が続くグループもあ

資料4 シミュレーションゲーム「Into Aging」説明書

【指令】 80歳の仮想年齢になりきり，４つのステージ（生活場面）を体験し，高齢者の身体・心理・社会的な加齢変化と日常生活を実感せよ。

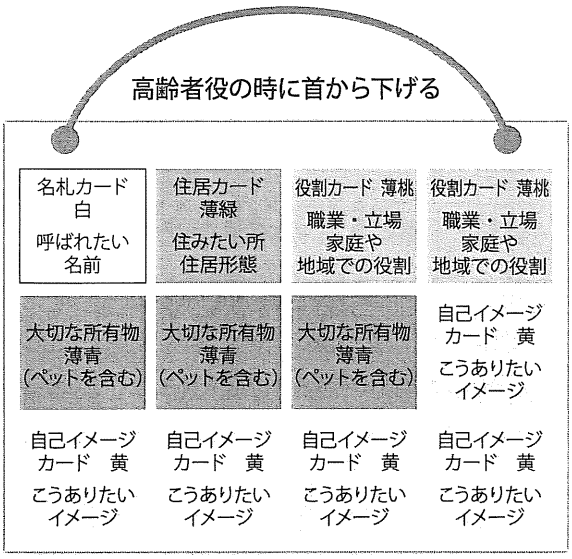
【攻略のポイント】

1．グループで体験する。80歳の高齢者，家族，地域の人，医療従事者など，それぞれの役になりきり，迫真の演技をして，体験的に学ぶ。
2．高齢者疑似体験セット（以下，セット）を装着時は，関節可動域の制限，感覚遮断などにより，特に移動時は危険を伴うので，グループ内で十分に配慮する。
3．タイムキーパーが体験カードを持ち，指定の場所に行って配役を指示し，円滑に体験できるようにする。特に高齢者役は視覚・聴覚が制限されているので，分かりやすいように対応する。
4．ステージ終了ごとに体験カードの指示どおり，付箋紙の喪失，獲得（喪失した付箋紙を戻す）を行う。この時，高齢者役の意思を確認する。
5．４つのステージを体験したらセットから離脱し，すぐに記録する。その時その場の思いは，その後の大切な教材となる。記録終了後，次々回のグループメンバーの体験から合流する。

【体験の除外】 「老い」「病い」「死」を扱う体験のため，学生の実体験と重なる内容もあり得る。体験することがつらい，厳しい，苦しいと感じる場合は，不参加で構わない。無理をしない。

【体験前の準備】 「私はこんな80歳」のボード作成

①教員の指示により，作業を進める。



付箋紙

白：名札カード（1）　薄青：大切な所有物（3）
薄緑：住居カード（1）　黄：自己イメージ（5）
薄桃：役割カード（2）

②疑似体験前に，80歳の私を自己紹介してグループメンバーからの感想を聞く。

ります。ご遺体役の学生の中には，その雰囲気と言葉から人生を振り返ったり，解放感を感じたりしたという者もいます。

楽しみながら学ぶ工夫

向山 つくづく大がかりな演習だと思いました。ここまで時間をかけて実施するのは大変ですね。私の学校では，一学年80人に対して疑似体験セットが２つしかありません。そのため，空き時間で学生各自が体験しておくようにという程度の使い方です。

芽形 疑似体験セットは道具の一つです。そのため，このほかの教材，例えば実習体験や視聴覚教材で同じような目標を達成できるのではないでしょうか。この演習は，みんなでワイワイ楽しみながら学ぶことができる点がよいと感じています。老いという，どちらかといえばネガティブな課題にも明るく向き合えるというか。ただし，進め方によっては，遊びの要素が強くなりすぎて，学ばせたい内容が不明確になりがちです。とはいえ，体験による学びが固定化されているのも問題ですが。

○○さん（あなた） 〈あなたならどう考えますか？〉

穂高 演習の展開は，工夫によりさまざまにできます。どう学ばせるかに関しては，この説明書（**資料4**）を見て

ください。遊びの要素を取り入れてシミュレーションゲームとしています。グループで生活体験の４つのステージをクリアしていくという設定です。体験を一つ終了するたびに，首から下げたボードの付箋紙を動かします。「喪失体験」「移動の体験」「病い・死の体験」後に付箋紙が減っていく。特に，「病い・死の体験」では，失くす枚数が多くなります。どの付箋紙を喪失するのかについて，高齢者役と家族役でのやり取りもあります。また，「獲得体験」後に失った付箋紙を取り戻し，グループで喜ぶこともあります。

・・・・・・・・・・・・・・・・

さて，本日の教師塾はここまで。誌上という限界もありますが，ご参加いただけましたでしょうか。

次回のテーマは，「高齢者のフィジカルアセスメントを教える＆学ぶ」です。ぜひご参加ください。ではまた次回で。

《新企画》実演を交えて要所指導!

利用者の要望を叶える 個別機能訓練と 疾患・状況に応じた訓練の 具体的な進め方

藤田健次氏
株式会社アクティブサポート 代表取締役
心身機能訓練・レクリエーション研究所 所長
作業療法士／主任介護支援専門員

14417

岡山 17年 2/25（土） 福武ジョリービル
福岡 17年 3/25（土） 福岡商工会議所
東京 17年 4/16（日） 日総研 研修室（廣瀬お茶の水ビル）
大阪 17年 5/20（土） 田村駒ビル

参加料／税込 本誌購読者 16,000円 一般 19,000円 ［時間］10:00～16:00

プログラム

1．疾患・状況別で学ぶ 個別機能訓練実践のポイント
- 軽度認知症
- 中等度認知症
- 重度認知症
- うつ病
- 統合失調症
- 脳血管障害
- パーキンソン病
- 脊髄小脳変性症
- 関節リウマチ
- 変形性脊椎症
- 変形性股関節症
- 変形性膝関節症
- 脊髄損傷
- 寝たきり

2．利用者ニーズに合った 個別機能訓練の進め方
- 認知機能低下への刺激に関する機能訓練
- 立ち上がりから歩行器歩行訓練や杖歩行訓練
- 自宅で入浴ができるようになるための機能訓練
- 一人で衣服着脱ができるようになるための機能訓練
- 一人で調理ができるようになるための機能訓練
- 一人で掃除ができるようになるための機能訓練
- 一人で洗濯ができるようになるための機能訓練　ほか

日総研 14417 検索

《新企画》デイケアのセラピストとして 今できること!

「リハマネ加算Ⅱ」 「生活行為向上リハ実施加算」 算定に向けたアクション の具体策

山田 剛氏
やまだリハビリテーション研究所
所長／作業療法士

14482

大阪 17年 3/25（土） 田村駒ビル
東京 17年 4/29（土・祝） 日総研研修室（廣瀬お茶の水ビル）

参加料／税込 本誌購読者 15,500円 一般 18,500円 ［時間］10:00～16:00

プログラム

1. 国（制度）が今後、通所リハに求める役割
2. 「生活行為向上リハビリテーション」は新しいリハビリなのか
3. 「リハビリテーションマネジメント加算（Ⅱ）」の正しい解釈
4. 「リハビリテーションマネジメント」（「SPDCA」サイクル）を実践するためのコツ
5. 「ニーズ把握票（興味・関心チェックシート）」の活用
6. リハビリテーション会議の効率的、効果的な運営の工夫
7. 生活行為にアプローチする目標設定
8. 生活行為にアプローチするプログラム立案
9. 生活行為向上へのアプローチに向けた多職種連携の壁の克服
10. リハビリの「卒業（修了）」に向けて進める、事業所間連携
11. 生活行為向上リハビリテーションの成果のモニタリング、評価
12. 医師やケアマネジャーとの連携
13. 2018年介護報酬改定に向けて リハ・看護・介護職が「今」できる現場実践

日総研 14482 検索